



## 杉並区

# 「わがまち杉並」を区民パワーでけん引

聖火リレーが杉並区にやってくるのは2020年7月18日。東京都では10日に世田谷区からスタートし、一度、23区を出て市部を回ってからの到着となるため、まだかまだかと待ちこがれる区民も多いのではないだろうか。そんな聖火リレーをはじめ、杉並区では東京2020大会の価値を高め、地域を活性化していくため、区民が主体となった取り組みを進めています。

### ビーチバレーボールで 地域活性とスポーツ振興を

ビーチコートを用意した永福体育館がリニューアルオープンしたのは2018年9月。既存の永福体育館は老朽化が著しく改築が必要でしたが、現在地での建替えは困難だったため、近隣にある学校統廃合で閉校した旧永福南小学校跡地に移転し、その校舎や体育館を改修して新たな永福体育館に生まれ変わりました。

東京2020大会も見据えて造られたこのビーチコート。事前キャンプ地として登録されているビーチコートは全国でも6箇所しかありませんが、そのほとんどは海岸の砂浜に設営されており、街中で、体

育館や会議室もあるビーチコートは非常に希少です。

また、2018年11月には、

前全日本男子バレーチーム監督の南部正司氏を「オリンピック・パラリンピック・スポーツアドバイザー」として迎え、氏の海外遠征経験などに基づき、ビーチコートの活用による事前キャンプ誘致をはじめとし、様々な助言を受けています。そのような中、氏のご

尽力もあり、イタリアオリンピック委員会から、永福体育館に整備したビーチコートを活用して、ビーチバレーボールチームの事前キャンプを実施したい旨の申出を受け、2019年5月9日に「イタリアオリンピック委員会（CONI）」と杉並区のビーチバレー

ボール事前合宿に関する協定

書締結式を行いました。こ

れは2020年7月14日から22日までの期間、国際競技連盟の基準を満たしたビーチコートがある永福体育館を、イタリアのビーチバレーボールチームの練習場所として提供するものです。



協定書締結式(左:CONI事前合宿統括責任者 右:田中区長)

この決定を受け、ビーチコー

トの壁面には区在住のイタリア人アーティストが描いた大きなタペストリーが飾られるなど、区民の間でも、どのよ



事前キャンプ地をPRする横断幕

うにイタリアビーチバレーボールチームを「おもてなし」する色々なアイデアが飛び出し、イタリア選手団を迎える準備は万端。杉並区民の熱い応援が、強豪イタリアチームの活躍を強く後押ししていきます。

ビーチバレーボールは海外での人気は高くメジャーなスポーツですが、日本での競技人口はまだ少なく、今後の普及が期待されます。イタリアチームの事前キャンプは、ビーチバレーボールの魅力を区民に伝え、杉並の魅力を世界に伝える大きなチャンスです。永福体育館はビーチバレーボールのみならず、ビーチテニス、ビーチサッカー、ビーチラグビーやビーチハンドボールなど、様々なサンドスポーツに利用可能です。杉並区では、今回の事前キャンプをきっかけに、子どもから大人まで気軽にサンドスポーツに親しめる施設として、東京2020大会以降も区民の健康づくりに役立てようと考えています。

### これが杉並の底力、 「チームナミスケ」いざ発進！

もうひとつ、杉並区が注力しているのは区独自のボランティア「チームナミスケ」です。この「チームナミスケ」は、東京2020大会をきっかけに、杉並区交流協会、杉並ボランティアセンターと連携しスタートしたボランティアで、区内在住、在勤、在学の方なら誰でも気軽に登録できることが特徴です。

現在、10代から80代まで幅広い年齢層の方およそ600名と4団体（2019年10月



「チームナミスケ」のユニフォーム

末現在）が登録しています。また、登録にあたっては、語学やイベントをはじめ、環境・美化、防犯・防災など、自分が携わりたい分野を選択し、自分のスキルを活かした活動に携わることができます。

なかでも特徴的なのは、「ホームステイ・ホームビジット支援」というボランティアです。杉並区のホームステイ・ホームビジットは、対象者を区と交流のある国内外の自治体等に限定し、顔が見える関係で、安心して自宅に迎え入れることができます。2020年7月から9月には、期間



「チームナミスケ」の活動の様子(ボッチャ体験会)

限定で、区立施設を活用したホームステイ・ホームビジットも計画しており、区と交流のある国内外の自治体の小中高生や海外から来日する大会ボランティアも受け入れ、区民が主体となって交流をしていく予定です。

競技の応援や観光だけではなく、暮らすように滞在して人や地域とふれあうことで、杉並の良さをもっと深く伝えることができるはず。住宅のまちならではのおもてなしによって、来訪者にとって杉並が第二のふるさとになることが期待できます。

東京2020大会をきっかけとし、区民が主体となり地域に参画していくことで、地域活性化体制がしっかりと根付き、区の発展の原動力となることを確信して、杉並区は区民の皆さんと力を合わせていくことでしよう。

